

Sustainability Assurance Insights

vol.3

国際サステナビリティ保証基準の開発

近年、ESG情報を含むサステナビリティ情報の開示が進むにつれ、サステナビリティ情報に対する保証について、ステークホルダーのニーズも急速に高まってきました。こうした状況を受けて、国際監査・保証基準審議会（International Auditing and Assurance Standards Board: IAASB）は2021年12月から、サステナビリティ／ESG情報の保証に関する情報収集及び調査活動を開始してきました。

IAASBは、2022年9月のIAASBボード会議において、サステナビリティ／ESG情報の保証基準開発を緊急の取組とすることを承認しました。加えて、基準開発のアプローチについては、下記の図のとおり、まずは緊急のアクションとして、サステナビリティ全般と取り扱う包括的な保証基準を開発し、その後、具体的な個別の保証基準等を積み上げていく、段階的アプローチを採用しています。

緊急のアクション

サステナビリティ全体を取り扱う

包括的な保証基準を開発する

- 優先度の高い課題に対処
- 限定的保証と合理的保証の両方を取扱う
- ISAE*1 3000(改訂)と整合した個別の新基準を開発



段階的アプローチ

将来の対応

時間の経過とともに更に基準を
積み上げていく

- 開示・保証の経験値が増えるにつれて、保証基準も更なる検討が必要

*1 国際保証業務基準（International Standard on Assurance Engagements : ISAE）

1 サステナビリティ報告保証基準の名称案

サステナビリティ報告保証基準の名称として、国際サステナビリティ保証基準5000「サステナビリティ保証業務の一般的要求事項」(International Standard on Sustainability Assurance 5000, General Requirements for Sustainability Assurance Engagements: ISSA 5000)が提案されています。「ISSA」も「5000」も、今までのIAASBが公表してきた基準では使われていない名称や番号体系となっており、既存のISAEなどとは別個の新たな基準シリーズとなることの明確化が意図されています。

2 サステナビリティ報告保証基準開発のアプローチ

サステナビリティ報告保証基準開発のアプローチとして、以下の5つのステップが示されていますが、基準開発の過程で、追加の対応が必要になる場合や、アプローチの調整及び改訂が必要になる場合も想定されています。

- ステップ1** ISAE 3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」*²、ISAE 3410「温室効果ガス報告に対する保証業務」*²、国際監査基準 (ISA)、EERガイダンス*^{2,3}の**定義**をそのまま使用できるか、サステナビリティ報告の保証により適切なものとするために変更する必要があるかどうかを検討する。
- ステップ2** ISAE 3000(改訂)及びISAE 3410に含まれる**要求事項及び適用指針**からサステナビリティ報告保証基準に関連するものを識別する。ISAE 3400の基本原則や基本的手続又はガイダンスも検討対象とする。
- ステップ3** サステナビリティ報告保証基準に含めることが適切な**概念**が含まれるISAを識別し、識別したISAから取り込むべき要求事項や適用指針を選定するための**規準(criteria)**を開発し、当該規準に基づきISAから要求事項や適用指針を取り込む。
- ステップ4** EERガイダンスから、要求事項や適用指針としてサステナビリティ報告保証基準に含めるべき事項を識別する。
- ステップ5** 前述の**6つの優先項目**に対処するために不足する指針を追加する。

*2 ISAE 3000、ISAE 3410及びEERガイダンスについては、Sustainability Assurance Insights Vol.2参照

*3 「サステナビリティ及びその他の拡張された外部報告(EER)に対する保証業務への国際保証業務基準3000(ISAE 3000) (改訂)の適用に関する規範性のないガイダンス」(Non-Authoritative Guidance on Applying ISAE 3000 (Revised) to Sustainability and Other Extended External Reporting (EER) Assurance Engagements)

3 優先度の高い課題

包括的な保証基準策定の段階で取り組む優先度の高い課題として、以下の6項目が挙げられています（各項目の詳細は、次回以降のSustainability Assurance Insightsにて解説予定です。）。

- ① 限定的保証と合理的保証の作業の差異
- ② 規準(criteria)の適合性(suitability)
- ③ 保証業務の範囲
- ④ 証拠
- ⑤ 企業の内部統制システム及び業務実施者による十分かつ適切な証拠の入手可能性への影響
- ⑥ 重要性

4 IAASBにおける基準開発スケジュール

2023年4月末現在の基準開発スケジュールは以下のとおりです。
今後の予定は、プロジェクトの進捗次第で変更となる可能性があります。

- 2023年6月：ISSA 5000の公開草案を承認予定（コメント募集期間：120日間）
- 2023年12月：公開草案のコメント募集期限
- 2024年9月：ISSA 5000の最終承認予定

10分で分かる！
IAASB ボード会議シリーズ
ショート動画配信中



（執筆者）日本公認会計士協会 監査グループ事務局
（発行日）2023年4月28日



業務本部 監査グループ

E-mail: kansa@sec.jicpa.or.jp

URL: <https://jicpa.or.jp/>

 [JICPA 監査・関連情報 \(@jicpa_audit\)](https://twitter.com/jicpa_audit)

